

錫杖岩「見張り塔からずっと」 8月30日(日)

メンバー： N H I O K. 0(記)

8月30日(日) 天候：曇り

コースタイム： 取付き登攀開始 6:15～大洞穴 10:00～頂上 15:00～岩小屋 19:00～槍見温泉 20:50

フロログ： 私は、7月21日付けの私のブログで、山の登り方(山のプロセス)の大切さについて書いたが、その中で、私の好みは山の頂に向かうルートを取り方の面白さと創造的な工夫の楽しみであると書いた。

実はこの記事を書いたときに、すでに一つの登攀したいルートに秘めていた。錫杖岳の「見張り塔からずっと」というルートである。このルートは錫杖岳の頂上に抜ける変化に富んだバリエーションであり、私の好みに叶うものであると認識していた。

そんな折り、私のブログを読んだSクラブのHさんから、賛同のメールが届き、私と同じルートに目を付けていることが分かった。そこで意気投合し、この度登攀することになった。

当日は曇り空でガスの巻く天候であったが雨は降らず、希望通りの快心の登攀を楽しむことができた。パートナーになってくれたHさんに感謝したい。

概 要: 明けやらぬ早朝3時前に目が覚めると、錫杖沢出合いのキャンプ地はガスに覆われて視界がきかない状態であった。これでは今日の登攀は無理かなと思いつつ再び眠りについた。4時に再び目が覚め、準備に掛かる。準備中にガスは晴れ、5時、ピークハント予定のTさん、さんと打合わせをしてから出発する。

北沢大滝下に6時前に到着、準備に掛かる。昨日の雨のためか、壁は全体に湿っぽい。登攀スタイルはHさんと私のつるべ方式とした。

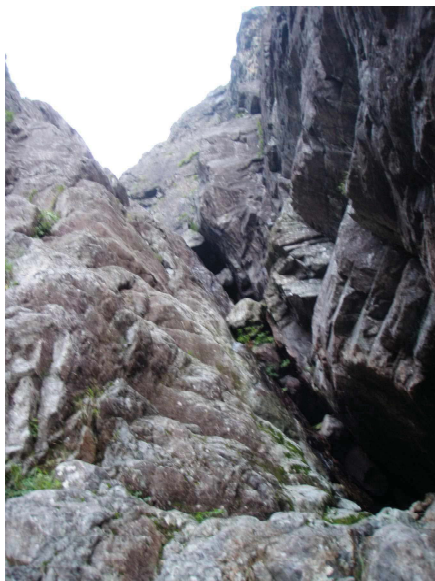
ルートの状態であるが、大洞穴までは、前日の雨によって濡れていてもさほど気にはならなかった。下部のスラブ帯を抜け、中央稜を越えてから、私達は大洞穴に向けて右俣沢の上部を横断した。こちらのルートはブッシュ漕ぎもなく、分り易くすっきりしていた。

しかし、この先、大洞穴左の前傾壁はかなり濡れており、精神的に厳しかった。カムを複数セットしながら登ったが、左へ移るムーブでは、思い切るまでに2,3回行きつ戻りつした。さらに、続いての核心部である、大テラスから上の凹角では、出口のところに挟まった大石が動き、こちらも精神的によくなかった。

トップのHさんは、ブツブツ言いながらもこの緊張感を楽しむ余裕を見せていた。続く右へのトラバースもホールドが濡れており、セカンドでもこれまた精神的に緊張させられた。

結局、3人パーティでもあったため、大洞穴から頂上まで4時間半を要した。上部岩壁に十分な時間的余裕を残しておかないと、頂上からの下降が日没になりルートファインディングが厳しくなるであろう。

なお、今回ランニング用とビレイ用に打ったピトンはすべて回収した。しかし、結構残置も目立った。おそらく上部岩壁の本峰フェースまでは、過去にいろいろと登られていると思われる。特に下部岩壁では、古いピトンも結構見つかった。北沢大滝のスラブのハンガーボルトは開拓時のオリジナルラインによる残置であろう。開拓記録によれば、「北沢大滝のハンガーボルト以外のすべてのプロテクションを回収した。再登される方はビレーアンカー以外の残置は避けていただきたい。」と記載されていた。いずれにしても、最後は錫杖岳頂上に飛び出す、感動的なルートであった。



←取付き 1P目



3P目のスラブ壁→